



アンチエイジングの 世界

ボツリヌス菌注入の検索

中村順子

2006・6・1

動機・・・アンチエイジングという
言葉をよく聞く

よく知っている美容整形から、ボ
ツリヌス菌までお肌に注入して
いるらしい。・・・これって安全？
情報はどの程度市民(私と同世
代の女性ですね)に届いている
の？

アンチエイジング

- 美容整形
- 抗加齢医療
- 抗加齢美容医療
- 再生医療

などといろいろな呼称があるらしい。

でもこれがわかったのは、少し検索をすすめてからの話

検索結果 1

キーワード	Yahoo	Google
美容整形 × ボトックス	84900件	129000件
美容整形 × ボトックス × 安全性	22600件	20800件
美容整形 × ボトックス × 安全性 × 訴訟	376件	487件

検索結果2

1 ▶ はほとんど美容整形の広告。いいことしか書いてない。

ここで得られる情報は

* しわとたるみでは施行する内容が違うこと

ボツリヌス菌注入(ボトックス)はしわにしか効果がない

* マイナスの情報はほとんどなし。数ヶ月で効果が切れる、ということくらい。

このあたりでわかるの(利用者の: 口コミサイト)は

- ・料金相場・・・3～20万円(1回)
- ・適応・・・小じわや表情じわを目立たなくさせたい人
- ・方法・・・筋肉を動かすことによってできるしわに直接注入する
- ・メリット/デメリット・・・細かい針で注入するため傷や腫れもなく人に気づかれない。注入直後から実感できる。/
注入により筋肉の作用を弱めるため不自然な表情になることもある。3～6ヶ月で効果がなくなる。

- ・上手なドクター・・・注入による内出血や腫れ、板も意がほとんどない。効果が長持ちする。不自然な表情にならない。
- ・下手なドクター・・・注入による内出血や腫れ、痛みが出る。効果がほとんどない上、みみず腫れやぼこぼこになる。注入箇所がずれている。不自然な表情になる。

*一言アドバイス

しわに効果的だが、たるみは改善できません。しっかりと適応を見てもらいましょう。目の周りの注入は、難しいため経験豊富なドクターを選びましょう。

検索結果3

- で初めて利用者のサイトに出会う。
 - <http://www.t-agent.jp/ope3.html>
 - ここでもまだボトックスについての詳しい情報はない。
 - ・ボトックスは米国アラガン社が製品化したもの。
- では、アラガン社のサイトへ

<http://www.allergan.com/site/>

残念ながらこれは英語。ずーっと読む気はしない。 で日本における製造販売がグラクソスミス社ということが判明

検索結果4

- ようやくボトックスの正体があった！！
- <http://glaxosmithkline.co.jp/medical/excl/botox/>
- ここはさすがに製薬会社なので、ボトックスを「薬」として情報公開をしていた。
- それによると…

ボトックスとは

- 1、A型ボツリヌス毒素製剤(ボツリヌス菌によって産生される神経毒素)
- 2、1977年に米国のScottが初めて斜視に対して臨床応用、眼瞼痙攣、片側顔面痙攣、痙性斜頸の治療に用いられる
- 1989年アラガン社が承認取得、日本では1996年に眼瞼痙攣に対して承認された。その後追加承認。
- 2005年12月よりグラクソスミスクライン株式会社が日本における製造販売承認を継承した。

特徴

- 1、局所的な神経筋伝達阻害作用により筋肉を弛緩させる
- 2、効果は通常3～4ヶ月持続する(眼瞼痙攣)
- 3、神経筋伝達阻害作用は時間経過とともに回復する
- 4、添加物として

塩化ナトリウム・人血清アルブミン

副作用

・副作用発現症例・2932例中416例(14.19%)延べ671件

* 兔眼・開眼不全100件(3.41%)

* 嚙下障害21件(0.72%)

* 頸部筋脱力21件(0.72%)

* 眼瞼下垂62件(2.11%)

* 流涙40件(1.36%)

* 顔面麻痺11件(0.38%)

* 注射部腫脹27件(0.92%)

* 倦怠感25件(0.85%)

* 頭重・頭痛20件(0.68%)

重大な副作用が発覚

- 痙性斜頸の国内臨床試験において本剤との因果関係が完全には否定しきれない突然死が1例。
- アナフィラキシー症状
- 眼：重篤な角膜露出、持続性上皮欠損、角膜潰瘍
角膜穿孔
- 呼吸障害、嚥下障害

他の美容整形情報サイトでは

- <http://www.biyouseikei.co.jp/index.cfm>
- (運営は医師個人輸入に関するコンサルティング、開業支援、国内海外文献のリサーチの会社、と自称しています)
 - ▶ ここではボトックスに対するHIVへの注意を呼びかけている(中国製剤に危険が大きい、と。アラガン社のものを使うように)
 - ▶ 偽ボトックスで死亡者(2004・米国)

結論・感想

- 1、一般的な検索では、副作用などの知りたい情報は出てこない。美容整形はみんな「開業医 = 医者」の広告なので、そこで「米国ではポピュラーなので大丈夫」と言われれば信じてしまうかも。
- 2、何とか薬としてのボックスにたどりついたところで、結構しっかりした副作用があることが判明。これはいざ、施行してもらうときに情報提供されるのだろうか。
- 3、これだけ美容整形やアンチエイジングなど騒がしいのに、市民のチェックのサイトが少ない。

続き

- ・HIVの危険性もあるとは驚き。みんなどのくらい知っているのだろうか。
 - ・顔にメスを入れないできれいになる、というのは魅惑的。割りに軽い気持ちでやる人も多いかも(最近ではホストクラブなんかには大金を使うマダムも多いらしい)インフォームドコンセントが気になるところ
 - ・しかし…
- 抗加齢医療、再生医療など「いつまでも若くいたい」という女性に対し支持的な医療が増えてきたのも嬉しい…(本音として。お金があればね…)